

流域総合保全構想を検討する必要性

緊急対策事業で、土壌保全新手法を新たに開発した後は、県の事業として対策を実行していくことになる。  
しかし、丹沢での土壌浸食現象は、シカ密度や植生と密接な関係にあるため、土壌保全を主眼としながらも、シカ保護管理と植生回復も一体として対策を実行する構想が必要である。

流域総合保全構想とは一成果目標一

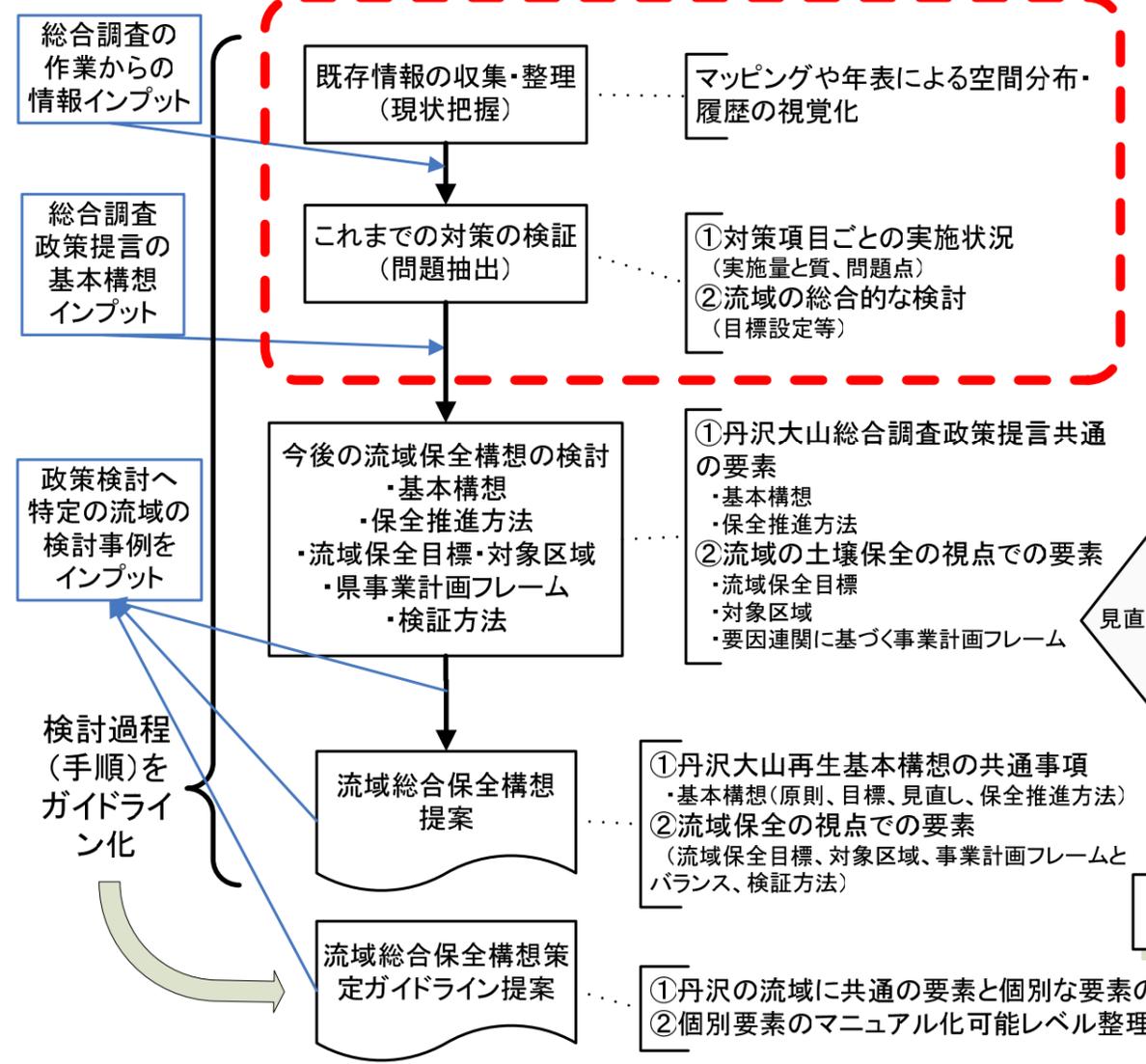
平成19年度から、シカ管理・植生回復と一体となった土壌保全のための総合的対策を実施するための実施構想。

策定の対象・・・中津川エリアの塩水川流域を対象とする  
構想の内容・・・当面の流域の再生・修復目標、対策事業全体の実施方針の再整理  
(場所による優先度、対策相互の関連、緊急・短期・長期対策の考え方等)

<検討の進め方>

\* 丹沢大山全域ですべての課題を取り扱う総合調査での政策検討に対して、緊急対策事業の流域保全構想では、土壌保全を主眼とした流域保全について中津川流域(なかでも特に塩水川流域)に限定しモデル的に検討する。

第2回委員会検討内容



収集・整理情報

- 流域基礎情報: 地形・地質・土壌・気象・水系・植生... (Atlas of Danze Mountain No. 1 Collection)
- 生きもの・水土・地域情報: 生物目録・水質・土砂動態・防災施設・土地利用・森林管理...
- 丹沢大山保全対策事業実施情報: 法規制・施策・計画・目標・事業実績(分布・量)...
- 行政資料
- 今回総合調査成果で整理済みのもの

中津川エリアでの丹沢大山保全対策の検証

① 対策項目ごとの実施状況整理

中津川エリア基本方向	中津川エリア対策項目	主な実施内容	対策項目別検証
ブナ林・林床植生等の植生回復(主に特別保護地区)	植生回復	植生保護柵	対策事業の量と質(対策項目により情報レベルが異なる)
	崩壊地復旧等	谷止工	
シカ保護管理	ニホンジカ個体群の管理	個体数管理	対策ごとの問題点
生態系環境収容力の増進	生態系保全環境収容力の増進	森林整備	
—	ブナ林内土壌浸食	—	—

② 保全対策の取り組み全体に関する検証

視点① 計画そのものに対する検証(課題、目標・エリア設定、対策のメニュー・手法)  
視点② 個別対策の実施に対する検証(実施した量と質(効果)、実施することで得られた成果と課題)  
視点③ 全体的な対策の取組みに対する検証(要因の連関、総合的評価)

総合調査政策提言

基本政策(自然再生基本構想)

個別事業計画

策外地保特生ブ再溪管国復希森対土  
来域護定生ナ生流理定少林策  
種再管鳥林環公種管  
対生理獣再境園回理全

モデル流域総合保全構想

全体を取り扱う政策検討WG作業に対し、個別限定事例を扱うことで両輪で進める。